

マラウイ体験記

〈後編〉

私の職種は村落開発普及員、簡単に言うところ村落部の住民がより良く暮らせるためにサポートしていく仕事だ。日本でも戦後「生改さん(生活改良普及員)」と呼ばれる人が農村を巡回し、生活を助けてきたそうだ。

私が派遣されたマラウイの農村では、これまでの自給自足生活に貨幣経済が入ってきた。しかし、それに追いついていないことに問題があると言えりるのかもしれない。現金収入のために若い男性は南アフリカに出稼ぎに行ってしまう。その結果、母子家庭、エイズ、食糧不足、子どもの就学率低下、早婚…。一見、冗談を言って笑って私を迎えてくれる楽しそうなおばちゃんたちにもこの負のチェーンが巻き付いていることが分かってきた。

それでも、新しいことに好奇心旺盛。私は地元の穀物や野菜、果物を使

ったスナック、ジャム、ジュース作りを教えた。農民たちは、毎週材料を準備して私を待っていてくれた。私も楽しかった。川から運んだ粘土で土鍋を焼いたり、砂まみれの乾燥キノコを一緒においしく料理したり、葉っぱ(雑草?)を重曹であく抜きする食べ方を教わったり、木の葉を蒸した蒸気でのどの痛みを治癒してもらったり。

農民たちは私が教えた加工食品で行商を始めた。お金をグループで管理することが必要になり、帳簿を付けることも教えた。任期が終わる3カ月前、グループは自分たちの店を持つために立ち上がった。グループのやる気を何とか実現させようと、私はJICA(独立行政法人国際協力機構)に予算を申請。そして帰国直前に建物は建った。

そこに在る人の力を一つにし、そこに有る農産物に手を加えて価値を生むこと。それを生活上や喜びにつなげることを実践していった農民たちに私は勇気をもたらして日本へ向かった。



渋谷 明香里 さん

美山町内久保出身。

2006年10月～2008年10月までの2年間、青年海外協力隊としてアフリカのマラウイ共和国へ。現地の生活を通して体験したことをつづけていただきました。

マラウイ共和国

首都:リロングウェ
面積:11.8万平方km(北海道と九州を合わせたほどの面積)
人口:約1,320万人(2006年、世界銀行統計)



▲加工指導する渋谷さん(左)

環・境・市・民

～環境にやさしい生活始めましょう～



—第7回—

さあ始めよう!

家庭でできる温暖化対策

地球と財布にも優しい

「緑のカーテン」のススメ

「緑のカーテン」をご存じですか? 朝顔やヘチマ、ゴーヤのようなツル性植物を家の窓下などに植え、垂らしたネットにツルをはわせて作る自然のカーテンのことです。

夏の日差しが建物に直接当たると、その熱のせいで夜でも部屋の中が暑く、ついエアコンのスイッチに手が伸びてしまします。そこで部屋の中のカーテンだけではなく、屋外で日差しをさえぎること

で、部屋を涼しく保とうというのがこの緑のカーテンです。また、たっぷり水を吸い込んだ葉の間を風が通り抜け、家中に涼やかな空気を運んでくれます。美しい花が咲けば、心もリフレッシュ。野菜などを収穫する楽しみもあります。家族みんなで植えて、毎日の成長記録をつけるのも楽しいものです。

この夏は地球にも、財布にも優しい天然のエアコンで暑さを取り切ってみてはいかがですか? さあ、さっそく準備を始めましょう!

作り方は、京都府地球温暖化防止活動推進センターのホームページ(<http://www.kcfca.or.jp>)に詳しく掲載されています。市役所にチラシなども置いてあります。



ツル伸びて

涼風運ぶ 緑夏かな

環境課

